

# 使い捨てプラごみゼロを目指して「キックオフイベント」を開催 一人一人自分たちにできることを考えた

2030年までに使い捨てプラスチックごみをゼロにするため、プラスチックごみ削減キックオフイベントを10月22日、芸術文化観光専門職大学で開催しました。高校生、大学生、一般市民など約450人が来場し、基調講演や活動発表、演劇、映画などを通して、開催テーマである「みんな一緒にワンモアアクション～地球環境のためにできること～」を参加者一人一人が考えました。

《問合せ》生活環境課地球温暖化防止対策室 ☎21-9136



未来を作っていく同世代の若者に環境問題について一緒に考え、行動を起こしてもらおうと、大学を休学し、全国の学校をまわり、精力的に講演活動を行っている露木さん。講演会には、高校生や大学生などたくさんの若者が参加し、多くの質問を寄せていた

## 基調講演「Z世代が思う地球の今」

環境活動家 露木しいなさん

### 気候変動のタイムリミットまで7・5年

地球の平均気温が今1・1度上昇していますが、地球の限界は1・5度だといわれています。その残された時間を表示したのがクライメートクロックです。二酸化炭素排出量と連動して動く時計で、残された時間は意外と短く7・5年です。日本では渋谷に設置されています。

### 本当に「幸せ＝便利」なのか

みんな幸せになりたいと思

って経済が発展してきたのに、なぜ、世界的に問題が多いのか。今の幸せは「幸せ＝行き過ぎた便利」にあると感じています。資本主義全体を見ると、必要以上に物を作り、多くの物が廃棄されています。世界の中で飢餓で苦しんでいる人が必要とする1年間の食べ物総量は420万トンといわれていますが、日本が出している食品ロスは最低でもその1・5倍の612万トンといわれています。本当に「幸せ＝便利」なのでしょうか。

### 環境先進国ほど幸福度が高い

世界的に環境先進国といわれる国は、幸福度が高い結果が出ています。環境問題というと、日本では制限、我慢、面倒くさいなどマイナスイメージしかできません。実際に取り組んでいる環境先進国を見ると「幸せ＝サステイナビリティ(持続性)」というように捉えています。改めて本当に自分たちが幸せな生活をしているのかというのを考えて、それを改善するきっかけになるのが環境問題ではないかと思えます。

### 100人中3人変わると世の中は変わる

少人数で環境問題が変えられるのかということですが、意外と世の中は少人数でも変わることが分かっています。それが「3・5%の法則」です。これはハーバード大学の教授が、過去に起きた非暴力的な革命がどれぐらいの人



たちが立ち上がったことによって成功したのか調べました。すると、たった3・5%の人たちが立ち上がったことによって、必ず革命が起きてきたことが分かりました。100人いると3人。意外と希望がある数字です。地球は本当に奇跡の星ですが、一度破壊されてしまうと元通りになりません。この世の中にある問題は、全て人間が原因を作っている。すごく悲しいことです。これが事実です。自分たちの選択によって問題の原因にも解決策にもなれると思いたいという思いで講演活動を行っています。

※本紙に掲載している情報は編集時点(11月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

# Z世代(10~20代前半の若者)によるトークセッション

豊岡高校3年 <sup>かのん</sup>小畑奏遥さん

## 高校の垣根を越えて地域サークル設立

SDGs(持続可能な開発目標)に関わっている高校生が少なく、一緒に取り組める人が見つかりませんでした。それで今年の夏、高校の垣根を越えて、環境に対して意識の高い高校生に声掛けをして地域サークルを設立しました。同じような意識を持つ人たちが同じベクトルで進むと、大きな力になって、さまざまなアクションができると思います。



近畿大学附属豊岡高校2年 <sup>ゆう</sup>赤浦由侑さん

## 環境に対する市の取り組みをもっと発信

海外では環境に配慮した商品を購入することが当たり前になっています。お金にならないとまちも持続可能にならないので、豊岡の自然を価値あるものとしてもっとイメージづくりし、環境に配慮した豊岡の商品が販売促進されればと思います。また、環境に対する市の取り組みをみんなにもっと発信した方がよいと思います。



地域おこし協力隊 <sup>たつき</sup>中田 樹さん

## 環境問題についてみんなで調べる

フランスから昨年帰国して感じたのは、人の言っていることを粗捜(あらさが)しする人が日本には多いなということです。気候変動の問題について発信したときに「それ本当に事実なの?」とよく言われました。そのようなネガティブな反応よりも、いま起こっている問題に対する解決方法を見つけ、取り組むことの方が大切だと思います。共に調べて、行動を起こす仲間が一人でも増えるように今後も取り組み続けます。



大岡学園高等専修学校3年 <sup>しょうご</sup>宮下翔伍さん

## もっと高校生と地域と一緒に活動できれば

豊岡市では、高校生が環境に対する活動を広めようとしています。あまり地域の方と一緒に活動をする機会がないので、もっと一緒にできればと思います。また、マイバッグが随分普及しマイバッグを持って買い物している人が多くなってきているので、レジ袋を廃止しても困る人は少ないと思います。



兵庫県立大学2回生 <sup>れん</sup>井上 蓮さん

## 豊岡市内に給水スポットの設置を

私は姫路に住んでいますが、姫路にはマイボトルの給水スポットが多いです。大阪にある大学では、水以外にお茶やジュースなども給水できて、マイボトルの持参率が上がったと聞きました。若者は環境意識が高く利便性を求めますので、豊岡市もこうした取り組みをすれば、マイボトルが普及すると思います。



大阪商業大学(進行役) <sup>さだお</sup>原田禎夫さん

## 活動を応援する仕組みを作ることが大事

私が住んでいる京都府亀岡市は、昨年からは日本で初めてレジ袋の提供を完全に禁止しました。きっかけは保津川下りの2人の船頭さんが始めたごみ拾いで、その活動が広がり、レジ袋禁止が実現しました。最初に一步を踏み出すことは勇気がいることです。市民活動を応援していく仕組みを作っていくことが大事です。

